

主催 インターカルト日本語学校

文部科学省委託事業令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修
対面セミナー・九州ブロック



地域日本語教育の可能性を切り拓く

みなさんは、地域日本語教室の意義をことばにできますか？そもそも、地域日本語教室はなぜ必要なのでしょう？教室に来る学習者が減っているという声がある一方で、日本語教室がない地域では教室立ち上げがすすめてれています。本セミナーはこのような背景のもとに、地域日本語教育について① 何のために行うか、② ①に即してどう具体化するか、③ ②の取り組みの意義をどうことばにするか、について考えます。



講演1 地域日本語教育と言語教育政策

14時05分～14時45分

神吉宇一（武蔵野大学）

日本語教育政策、地域日本語教育などが専門。現在の興味関心の中心は、「ことばの教育を通して共生社会を実現するとはどういうことなのか」を探究すること。小倉出身、九州好き、先祖は熊本で職人をしていました。



講演2 福岡県における地域日本語教室の展開とその意義

14時50分～15時30分

深江新太郎（NPO多文化共生プロジェクト）

福岡県と福岡市が取り組む「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」のコーディネーターなど。地域日本語教室にはどのような可能性があるのかをテーマにアクション・リサーチをしています。熊本は学部時代を過ごした第二の故郷です。



意見交換 テーマ 地域日本語教室の意義をどうことばにする？

15時40分～16時25分

ファシリテーター

高柳香代（多文化デザインコンパス，宮崎県国際交流協会）



セミナー終了後の16時30分から17時30分まで、同会場を開放し登壇者と自由に話ができる時間を準備しております。セミナー内で聞けなかったことなど、どうぞ自由にお聞きください。凡人社による書籍展示もございます。

共催：NPO多文化共生プロジェクト 後援：熊本市国際交流振興事業団，福岡市，宮崎県国際交流協会，凡人社，アルク，日本語教師養成コンソーシアム九州沖縄（CJT九州沖縄）

日時：2025年1月11日（土）14時～16時30分

場所：熊本森都心プラザA、B会議室（熊本県熊本市西区春日），JR熊本駅より徒歩3分

料金：無料

定員：50名（先着順，どなたでもご参加できます）

お申込み先：<https://forms.gle/CC6qTYVNJRBPWk4A>

申し込み用QRコード

お問い合わせ先：seikatsusha_info@incul.com，03-5816-5019（担当：谷口・菅波）

